

キャンプファイヤー・キャンドルの集い 共通台本

【1部】

1 入場・整列

2 初めの言葉

司会 ※必ず全員が静かになっていることを確認してから始めましょう。

「ただいまより、キャンプファイヤー（キャンドルの集い）を始めます。この自然豊かな英彦山で、みんなで力を合わせ、楽しい時間を作り上げていきましょう。」（拍手）

3 歌

司会

「まずは、しばらく目を閉じ、自然の音に耳を傾けてみて下さい。（30秒程）。目を開けてください。静けさの中に、自然や生き物の力強さを感じますね。この豊かな自然に囲まれた青年の家も、だんだんと夕闇に包まれてきました。夕闇の静けさを感じながら、『遠き山に日は落ちて』を歌いましょう。」

（CD1番を流す。）

4 火の神入場

司会

「この英彦山の奥深くには、遥か昔より、火の神が住んでいらっしゃいます。火の神は、特別な時にだけ山を下り、人々に火をお贈りくださいます。今日は、みなさんのために火の神が山を下り、聖なる火を運んできてくださいます。その暖かい火は、きっと私たちが明るく浮き上がらせてくれるでしょう。みなさんは火の神がたずさえる聖なる火にご注目ください。火の神入場」

（CD2番を流す。）

司会

（CDをとめる）

「英彦山の奥深くより、火の神が聖なる火を携えてお越しになりました。ここで火の神よりお言葉をいただきます。」

火の神

(原稿を読む場合は、照明係にトーチを手渡し、明かりで照らしてもらうとよいです。)

「今宵は、みなさんのために英彦山の奥深くより、聖なる火を携えてまいりました。この聖なる火をもう一度、静かに見つめてください。(15秒程)

火は、多くの生き物の中で、唯一人間だけに与えられた宝物です。

赤々と燃えるこの火は、温もりを与えてくれる愛情の源です。

赤々と燃えるこの火は、暗やみを明るく照らす希望の源です。

赤々と燃えるこの火は、食をおいしくする命の源です。

今宵は、みなさんが仲間と協力し、楽しい時間を過ごすことを願い、特別にこの火を分け与えましょう。」

5 分火と誓いの言葉

司会

「ありがとうございました。それでは、火の神より、聖なる火を分けていただきます。みなさんはいただいた火に、誓いの言葉を立ててください。聖なる火の分火。」

火の守1へ分火→誓いの言葉 → 火の守2へ分火→誓いの言葉 →...

6 キャンプファイヤー点火

司会

「火の神により、火の守への分火が終わりました。ただいまより点火を行います。火の神と火の守は中央に集まり、同時に点火してください。聖なる火の点火。」 (CD3番を流す)

※一斉にトーチを差し込み、点火する。

※持参したトーチは燃やし、借りたトーチは火を消し、回収する。

6 キャンドルの集い点火

司会

「火の神により、火の守への分火が終わりました。ただいまより点火を行います。火の神と火の守は中央に集まり、順番に点火してください。聖なる火の点火。」 (CD3番を流す)

※火の守1から順番にろうそくに点火し、トーチのろうそくも燭台に置く。

※火の神は大きなろうそくに火をつけるだけ。

7 詩の朗読

司会

(CDをとめる)

「見事に聖なる火が燃え始めました。この炎を見つめ、詩の朗読ろうどくを行います。詩の朗読。」

8 歌

司会

「ありがとうございます。さあ、聖なる火が強く輝き始めました。この火を見つめながら『燃えろよ燃えろ』を歌いましょう。」

(CD4番を流す。)

9 火の神退場

司会

「火が赤々と燃えたところで、聖なる火を運んでくださった火の神が一度退場します。火の神退場。」

(CD5番を流す。退場が終わったらCDを止める。)

司会

「この聖なる火は私たちの友情の火です。しばらくこの火を見つめましょう(15秒程)。それでは、第2部に入ります。第2部の司会の人、お願いします。(2部の司会と交代する。)

※キャンドルの集いは、会場の照明をつける。(つけなくてもよい)

【2部】 ※レクリエーション、ダンス、歌、グループの出し物など。

【3部】 ※キャンドルの集いは、3部が始まる前に会場の照明を消す。

司会

10 火の神入場

これから第3部を始めます。楽しいキャンプファイヤー(キャンドルの集い)も終わりに近づいてきました。再び火の神が入場します。火の神入場。

(CD6番を流す。入場が終わったらCDを止める。)

※キャンドルの集いのみ ^{のうか}納火 を行う。

司会

「みなさんが誓いをたてた火を、火の神の力を借りて英彦山の森の中へ返します。火の神、お願いします。」(CD7番を流す。終わり次第CDをとめる。)火の神が燭台の火を消していく。

11 詩の朗読

司会

「あんなに力強く燃えていた火も小さくなってしまいました。私たちを明るく照らし、楽しい時間を与えてくれた火に、そしてみなさん一人ひとりに感謝の気持ちを込めて、詩の朗読を行います。詩の朗読」

12 火の神の言葉

司会

では、最後に火の神より終わりの言葉をいただきます。

火の神 (原稿を読む場合は、照明係に原稿を照らしてもらうとよいです。)

あんなに赤々と燃えていた火も、今は静かに大地へ返ろうとしています。しかし、みなさんの胸の中には赤々と燃える火が、今もきつと燃えているはずです。この火がいつまでもみなさんの心に灯され、友情や希望の火として明るく輝き続けることを願ひ続けます。これから先、苦しいこと、悔しいこと、悲しいことがあった時には、この火を思い出し、力強く生きてください。

13 歌

司会

ありがとうございました。この集いを振り返り、みんなの心を一つにして『今日の日さよなら』を歌いましょう。

(CD8番を流す。)

14 火の神退場

司会

それでは、火の神が英彦山の森へ帰られます。みなさん最後まで見送ってください。火の神退場

(CD9番を流す。退場次第止める)

15 終わりの言葉

司会

キャンプファイヤー（キャンドルの集い）も終わりを迎えました。

司会の感想

これでキャンプファイヤー（キャンドルの集い）を終わります。ありがとうございました。（拍手）^{はくしゅ}

『火の守の誓いの言葉』の例

基本形：私たちは～を誓います。

友情の火：友と力を合わせ、友情を大切にすること
希望の火：希望の心を大切にし、いつまでも前につき進むこと
勇気の火：勇気を持ち、正しい心で立ち向かうこと
努力の火：目標をもって、自分を高め続けること。
情熱の火：炎のように、熱く強く情熱を持ち続けること
奉仕の火：思いやりの心を持ち、人のために尽くすこと
感謝の火：人のやさしさに感謝し、その思いを忘れないこと
心の火：人の心を理解し、心と心でつながるよう努力すること 等

献詩の例

【^{えいか}営火は燃える】

営火は燃える ^{あかあか}赤々と燃え まっすぐに燃え ^{はげ}勇気を出せと励ます

営火は燃える ゆらゆらと燃え ^{まね}招くように燃え 豊かであれと励ます

営火は燃える ^{おど}踊るように燃え ^ま舞うように燃え 輪を広げようと励ます

私たちを支える営火の火は いつまでも ^{やみ}闇を照らし 今が本番だと教える

人生には リハーサルがないと教える 私たちはいつまでも この火を見つめる

【あたりまえのことを】

あたりまえのことを あたりまえにやれて
あたりまえのことを 感動できる人になりたい
あたりまえのことを あたりまえにやるのが
おろそかになっては いないだろうか
あたりまえのことに 感動できなくて
強い刺激しげきのみを 追ってはいないだろうか
人間は人間らしくあるという あたりまえのことを 大切にしたい

歌詞

『遠き山に日は落ちて』

遠き山に 日は落ちて 星は空を 散りばめぬ
今日のわざを なし終えて 心かろく やすらえば
風は涼し この夕べ いざや 楽しき まどいせん

闇に燃えし かがり火は 炎 今は しずまりて
眠れやすく いこえよと 誘うごとく 消えゆけば
やすき御手に 守られて いざや 楽しき 夢を見ん 夢を見ん

『燃えろよ燃えろ』

燃えろよ燃えろよ 炎よ燃えろ
火の粉を巻き上げ 天までこがせ

照らせよ照らせよ 真昼のごとく
炎よ 渦巻き 闇夜を照らせ

燃えろよ照らせよ 明るく熱く
光と熱との もとなる炎

『今日の日はさようなら』

いつまでも 絶えることなく 友達でいよう
明日の日を夢見て 希望の道を

空を飛ぶ 鳥のように 自由に生きる
今日の日はさようなら また会う日まで

信じ合う喜びを 大切にしよう
今日の日はさようなら また会う日まで